

ASPIC

2025
Vol.1 創刊号

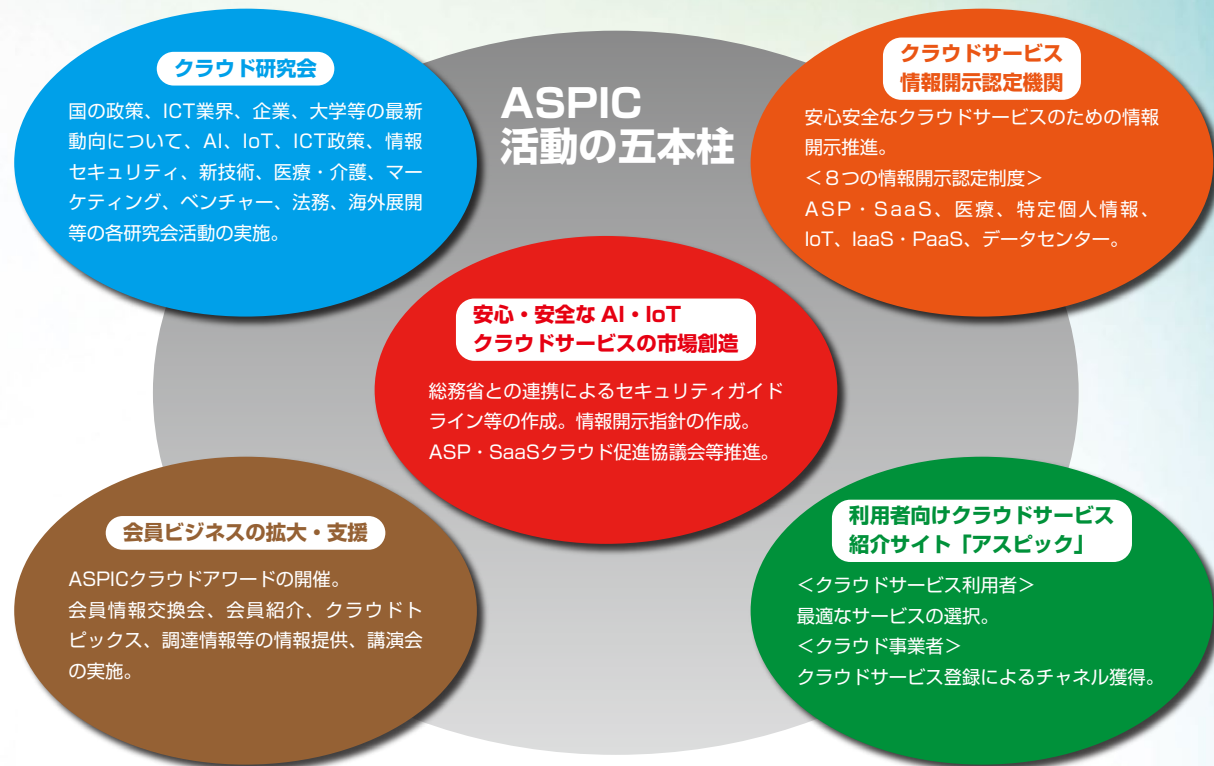
クラウドマガジン



特集 ASPIC
クラウドアワード2024



一般社団法人日本クラウド産業協会（ASPIC）のご紹介



ASPIC 25年のあゆみ

1999年11月	任意団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」創立
2002年2月	特定非営利活動法人(NPO)の認証取得
2003年4月	「ASP白書2003年版」作成・出版
2006年5月	「ASP・SaaSイノベーションシンポジウム」開催
2007年2月	国内初「第1回ASP・SaaS・クラウドアワード」開催
2007年4月	総務省と合同で「ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会」設立
2008年4月	ASP・SaaS情報開示認定制度開始(認定機関FMMC、事務局ASPIC)
2008年6月	ASPICが「総務大臣表彰」を受賞
2009年2月	「ASP・SaaSデータセンター促進協議会」設立
2012年6月	河合会長が「総務大臣表彰」を受賞
2012年8月	クラウド情報開示認定制度開始(認定機関FMMC、事務局ASPIC)
2017年10月	「クラウド情報開示認定」認定機関ASPICに移管
2017年10月	ASP・SaaS医療情報／ASP・SaaS特定個人情報の情報開示認定制度開始
2018年12月	IoTクラウドサービス関連のクラウドサービス情報開示認定制度開始
2019年4月	クラウドサービス紹介サイト「アスピック」運用開始
2020年4月	NPO法人から一般社団法人ASP・SaaS・AI・IoTクラウド産業協会に変更
2022年4月	AIクラウドサービスの情報開示認定制度開始
2022年4月	一般社団法人 日本クラウド産業協会に法人名称変更
2022年7月	クラウドサービス情報開示認定300サービス突破
2023年5月	河合会長が「旭日小綬章」を受章
2024年12月	アワード表彰数、アスピック登録サービス数、ASPIC会員数、各1000を突破



Interview

日本クラウド産業協会（ASPIC）会長

か わ い て る よ し
河合 輝欣

1999年に設立されたASPIC(一般社団法人日本クラウド産業協会)は、世間に「クラウド」の概念が広がるはるか以前から、会員企業と業界全体の発展に寄与し続けてきた。今回、『ASPIC クラウドマガジン』創刊号の発刊にあたり、団体の発足以来、常に先進的な活動を通じてクラウド業界をけん引してきた河合輝欣会長に、これまでの歩み、そしてこれからのASPICの展望と、業界において果たす役割について聞いた。

「クラウド前夜」の時代 ASPIC会長に推される

河合輝欣がASPICの会長に就任したのは、河合が株式会社NTTデータで副社長を務めていた1999年のことである。

「当時のNTTデータは、官公庁などに向けた大規模なシステム開発が主な業務でした。それに加えて、インターネット関連の新規ビジネスとして『ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダー)』事業を推進することになったのです」と、河合は語る。

しかし、1999年のインターネット個人普及率はわずか21.4%(2023年は86.2%)。ASPの存在を知るものなど、それこそ皆無であった。

「『ネット経由でサービスそのものを提供』するASPは、今でこそ当たり前になりましたが、

当時としては非常に先進的なものでした」。

そんななか、NTTデータのインターネット、データセンター事業の担当役員であった河合は「ASP業界団体」の創立時にトップに推される。

「それは、かつて私が『大型コンピュータを利用した公衆データ通信システム』に深く関わっていた経歴が、大きく関係しています」。

話は、河合が同システムに関わり始めた1970年代前半にさかのぼる。

「1970年代の最新技術」と ASP・クラウドの共通点

「当時のコンピュータは、高価で導入コストが高く、大半の中小企業には保有不可能でした。そこで、私が勤めていた電電公社(現・NTT)は、自社の高性能・大型コンピュータとユーザ企業

クラウドアワードをはじめとした数々の施策で
クラウド業界と企業の発展を強力にサポート



クラウドアワードを受賞した 企業が大きくなると 開催してきた意義を感じます

を電話回線でつないで共有する『公衆データ通信システム（販売在庫管理システム）』を開発したのです」。

同システムはユーザが販売・在庫などのデータを送信し、電電公社のコンピュータが処理を実行、結果をユーザに戻す、という仕組みだった。

「『処理は外部に任せ、ユーザは手元の端末でサービスを受ける』という意味では、ASP・クラウドと構造がまったく同じです。現在的高速回線・高機能システムとは比べ物になりませんが、『オンラインでコンピュータを使える』こと自体が当時最新の技術であり、とてつもないメリットがありました」。

河合は、この「公衆データ通信システム」の担当係長として、販売・開発・運用に深く携わっていた。

「システムは社会インフラになりつつあったのですが、赤字などの理由で残念ながら中止されてしまいます。多くの先進的なユーザさまとの取引をお断りすることになり、個人的にも残念な思いをしたものです。それがインターネットの時代になり、同じ仕組みを持つASPが登場しました。私自身もそのビジネスに将来性と新たな希望を感じていたところ、『団体の会長をやらないか』と言われたので、『やりましょう！』ということになったのです」。

こうして河合は「ASP インダストリー・コンソーシアム・ジャパン（ASPIC、現・日本クラウド産業協会）」の初代会長に就任する。

ASP・クラウドの普及活動から 「情報開示認定制度」の設立へ

ASPIC 設立当初、河合が特に力を入れていたのはASPの普及を目的としたセミナーや講演会だった。

「最初の数年間はもう年がら年中、普及活動で講演

会や、さまざまな研究会を行っていましたね。特に中小企業・ベンチャーの方々がいろいろと頑張っておられる姿が、公衆データ通信システムの時代のお客さまとも重なり『これはきちんと支援しなければいけない』という思いを強くしました。しかし、インターネットが脚光を浴び、さらにそれを利用したサービスモデル『ASP』がブームとなった反面、『簡単にビジネスモデルとして成功するのか？』という声があったのも事実で、当時、ASPIC 以外にASP 関連の講演を開催している団体はほとんどありませんでした」。

だが、ASPIC の啓発活動と時を合わせるように、急激な技術革新によりPCやサーバの低価格化、ネットワークの高速化が実現。ASPのビジネス環境は整っていったが、同時期に別の懸念も生まれつつあった。

「2000 年代中盤頃から、セキュリティの懸念が顕在化しました。このため、総務省とASPIC は合同で『ASP・SaaS 普及促進協議会』を立ち上げ、ASP・SaaS のセキュリティガイドライン等を策定。公表を総務省が行い、事業者の安心安全なサービスの推進・提供に取り組みました。そして、当時の事業者は『うちのサービスは安全です』とユーザに言いがちでしたが、利用者には把握できない問題なので、第三者がしっかりと見極めないといけません。これは業界全体の信用にも関わりますので、『ASP・SaaS 普及促進協議会』の場で、ユーザに対するセキュリティなどのサービスの情報開示を行う制度も検討し、その結果『情報開示認定制度』が2008 年にスタートしました」。

その後、同制度には「IaaS・PaaS」「医療情報」など全部で8つのカテゴリーが誕生。2022 年には認定取得サービスが累計300を超え、現在も増加中だ。

「個別のトラブルはありますが、総務省等政府のご指導ご支援、協議会での種々のセキュリティガイドラ

イン・情報開示指針などの作成、情報開示認定制度の推進、クラウド事業者の努力等の結果、業界全体としては、これまでユーザに不安を与えていないと思います。ASPIC としても25 年にわたり、安心安全なクラウドサービスの普及促進を実施してきた成果でしょう」と、河合は控えめながらも胸を張る。

ASPIC クラウドアワード創設 そして「総務大臣賞」の誕生

情報開示認定制度とほぼ同時期に、「ASP・IT・アウトソーシングアワード（現・ASPIC クラウドアワード）」が始まった。その初回総合グランプリが、当時日本ではまだ「知る人ぞ知る」存在だったSalesforce 社である。

「初回は84 社から124 サービスのエントリーがありました。選考で残った皆さまにプレゼンをしていただいた後、審査委員が最終的な議論をしたのですが、やはり『Salesforce の先進性はずばぬけている』という結論に達しました」。

後に同社が、クラウドサービスを代表する世界的企業になったのは皆さまもご存じの通りだ。図らずもASPIC の「鑑定眼の確かさ」や「先見の明」が証明された一件となったと言えるよう。

2015 年の第9 回からは、その年に応募された最高のサービスを顕彰する「総務大臣賞」が新設される。

「実は、2015 年以前に、総務大臣表彰を授与していただけることで進んでいたのですが、ASPIC とはまったく関係のないNPO 法人の不祥事が原因で授与が取りやめとなり、残念な思いをしました。その後、長らく授与には至りませんでした。ところが、2014 年のアワードの表彰式に出席された総務省の政策統括官の

方から、『意味のあるアワードなので、来年からは総務大臣賞を授与する』とスピーチをいただき、この賞が始まることになったのです」。

総務省関係者も参加して厳正な審査が行われる「総務大臣賞」は、クラウドサービス最高峰の賞としてすっかり定着。その存在が、業界におけるアワードとASPIC 自体の存在感を高める結果ともなった。

これまで多くのサービスを表彰してきたアワードだが、河合には特に印象に残る企業が数社あるという。

「特に上場を果たした、第2 回ASPIC クラウドアワードのASP・SaaS 部門総合グランプリ『プロパティデータバンク』さまや、第3 回から参加している『カナミックネットワーク』さま。さらに、ASPIC のさまざまな活動にもご助力いただいている『MC データプラス』さま、『コクヨ』さま、『ネオレックス』さま、『スパイラル』さまには、今後もクラウド業界の先進的な企業としてリーダーシップを発揮していただきたいです。その他、長年にわたり各部門に幅広くエントリーし、総合グランプリ等、多数受賞されている『NTT コミュニケーションズ』さま、受賞後にあつという間に大きくなられた『freee』さまも印象に残っています。皆さんの優れたサービスの後押しのために開催しているアワードなので、受賞企業の上場や事業の発展を見ると、われわれとしても『やっていて良かった』という気持ちになりますね」。

25 周年を超えてなお さらなる進化を目指す

さて一見、順風満帆に見えるASPIC クラウドアワードだが、実はその歴史は「山あり谷あり」であったという。



「アワード設立から数年後にエントリーが伸びない非常に苦しい期間や、世間的に ASP の熱が冷めたこともあって、一度は ASPIC 自体の会員減も経験しました。しかし、先ほども述べましたアワードへの『総務大臣賞』導入や、AI や IoT などの新たなビジネスモデルの出現、積極的な広報展開などで ASPIC の社会的認知が高まり、2024 年には設立 25 周年を迎えることができました。少しさかのぼりますが 2019 年には、ユーザがクラウドサービスを簡単に比較・活用できる検索サイト『アスピック』がスタートし、現在では登録サービス 1000 以上、3 万人のユーザを抱える人気コンテンツとして、参加企業の営業面にも寄与しております」。

開催 18 回目を数える ASPIC クラウドアワードの、さらなる進化も模索中だ。

「時代に見合った新部門の創設や、どのカテゴリーでも AI が使われる現状を反映し『AI 部門』の扱いをどうするか、エントリー方法の改善などアワードのリニューアルを検討中です。表彰された皆さまによくお話を聞き、アワード参加者にとってさらにメリットがある催しにしていきたいと考えています」。



プロフィール●かわい てるよし
日本電信電話公社（現・NTT）に入社。1988 年、NTT データ通信（現・NTT データ）発足とともに同社公共システム事業部長。1997 年、同社代表取締役副社長。2007 年より、株式会社ユー・エス・イー取締役会長。プロジェクトマネジメント学会名誉会長なども務める。1999 年より、任意団体 ASP インダストリー・コンソーシアム・ジャパン（現・ASPIC）会長。2012 年度「情報通信月間」総務大臣表彰。2024 年に「旭日小綬章」を受勲。

河合は、ASPIC の組織改革も構想している。

「現在の ASPIC は会員企業の皆さまを、営業面は検索サイト『アスピック』で、技術面は『情報開示認定制度』や『セキュリティガイドライン』で、情報提供は各種の『研究会』やメールで毎週最新事情をお届けしている『クラウドトピックス』『官庁調達情報』『AI フロントニア』『Security Watch』（隔週）で、会員同士のアライアンスは『会員情報交換会』で、そして事業支援は『アワード表彰』で、それぞれ強力にサポートする体制を整えています（上図参照）。これからの改革としては『ユーザ会員』というカテゴリーを作り、ASPIC を事業者と利用者が一体となったクラウド団体にしていきたいです」。

そして最後に河合はこう力強く語った、「自立型 AI から汎用 AI へ、さらに『人工知能』へと技術が進化するこれからの時代も、ASPIC は『クラウド業界のリーダー』として、業界全体のさらなる発展と社会貢献を目指し、安全安心な『社会インフラ（＝クラウド）』を支える団体であり続けます」。



特集

ASPIC クラウドアワード2024

2024年11月20日
経団連会館 国際会議場

ASPIC クラウドアワード 2024

2024（令和 6）年 11 月 20 日（水）、東京都千代田区大手町の経団連会館・国際会議場において、第 18 回「ASPIC クラウドアワード 2024」が開催された。

「ASPIC クラウドアワード」とは、優秀かつ社会に有益な日本国内の IoT・AI・クラウドサービスを表彰し、事業者およびユーザの事業拡大、さらには業務効率化等を支援する催し。クラウドサービスの利用促進と市場創造により、社会情報基盤を確立することを目的としている。

なお、アワードを主催する「一般社団法人日本クラウド産業協会（呼称：ASPIC）」は、安全な社会インフラとしてのクラウドの普及と発展を目標とする、1999 年設立の業界団体である。

アワード当日のプログラムは、第一部の「表彰式」と、第二部の「受賞記念パーティ」で構成された。

開会宣言で始まった表彰式は、次いで司会により来賓、後援団体、審査員が紹介。そして河合輝欣・ASPIC 会長の主催者あいさつに続く、阪田史郎・中村太一の両審査委員長による「審査員長総評」では、今年の参加サービスの傾向や、クラウド業界全体の動向などが語られた。

その後の部門ごとの表彰では、栄えある総務大臣賞を受賞した株式会社 RevComm の「MiiTel」をはじめ、合計 8 部門・136 のサービスに各賞を授与。総務副大臣・阿達雅志さま、総務省情報流通行政局参事官・山野哲也さまからのごあいさつも頂戴した。



審査委員長総評

「いかに複数のサービスに適応させているか」を重視



AI 部門 / IoT 部門 / IaaS・PaaS 部門 / 運用部門 審査委員長
阪田 史郎 様

私は AI 部門、IoT 部門、IaaS・PaaS 部門、運用部門の審査委員長を担当させていただきました。

それぞれが独立した単一のサービスである ASP・SaaS の他部門と違い、この 4 部門には「いくつかの個別のサービスを束ねて機能を提供する」という特徴があります。

そこで部門の性格上、個別のサービ

スの特徴や優位性というよりは、「どのような技術を活用し、組み合わせているか」「特定のサービス・アプリケーションに閉じず、いかに複数のサービスに適応させているか」という点を重視して審査をいたしました。

審査プロセスは、一次で提出された書類から候補を絞り込み、二次ではプレゼン資料を基に選定し、最終段階でエントリー者に実際のプレゼンテーションを行っていただく、という流れをとりました。

個別に見てみると、AI 部門は、ご存知のとおり米 OpenAI の「ChatGPT」の公開で、大きく流れが変わりました。

そんな背景から、今年は生成 AI の活用が急増し、昨年は 9 件中 1 件のみだったのに対し、今年は実に 8 件中 5 件が生成 AI 関連のサービスとなりました。

現在は、まだテキストでの利用が中

心ですが、これからは画像や音声も含めた「マルチモーダルな生成技術」を利用した AI 部門へのサービスの応募が増えるのではないかと期待しております。

IoT は、技術的にはかつてユビキタスと呼ばれていたものとはほぼ同じですが、2012 年頃にこの呼称で呼ばれるようになりました。誕生からそれだけの歳月を経て、社会へのさらなる浸透が求められるジャンルとなります。

IoT 部門で期待されるのは、エッジコンピューティングや、視覚センサーなどを使ったセンサーネットワーク等の新技術です。

さらに、AI と IoT を組み合わせた「AIoT」や、5G などの高速ネットワークを活用した高度な技術の進展が望まれております。今後の IoT 部門の応募増にも期待したいと思います。

社会課題解決に資するサービスを提供する参加者に敬意



ASP・SaaS 各部門 審査委員長
中村 太一 様

最初に、「ASPIC クラウドアワード」に応募された多くのサービスを拝見したことで、最新の技術や社会的課題への高いレベルでの取り組みについて、私自身が理解を深める機会をいただけたことに感謝申し上げます。

具体的には次のようなサービスが印象的でした。「工事現場のデータを画像・映像情報化して作業支援し働き方を改革する」、「デジタル化が推進され

る商取引や公的申請に必要な事務処理を効率化する」、「食品ロスを防ぐ仕組み」、「家庭と学校を連携し、子どもの安全な教育環境を確保する」、「セキュリティ環境の構築支援」、「新規ビジネス成功のため、先人の知恵を活用してリスクを避ける仕組み」、「企業の組織やリスク管理環境の構築、運用支援」、「セキュリティやアジャイル開発人材の育成」、「日本版 GitHub」、「働く高齢者の健康・体調管理、交通事故の回避」、「データに基づく農業経営支援」などです。

サービスを技術面から見ると、重複を含めて AI を活用したものが全 94 件中 33 件（35%）を占め、画像や音声などメディア処理の活用が 22 件（23%）、蓄積されたクリーンで膨大なデータの活用が 20 件（21%）、セキュリティ案件が 10 件（11%）となりました。

これらのデータから、AI やデータ活用による業務改善、セキュリティ環境の構築が応募者の間で重要視されていることが分かります。

その他にも審査を通じて、一連の業務を組み合わせてプロセスを再構築することで、組織全体の効率化を図る方策の重要性も認識できました。

また、エントリーされたサービスは、デファクトを組み合わせたもの、あるいは自社で開発された安定したシステム基盤の上に実装され、高信頼なサービスを提供していることもよく分かりました。

すべての応募サービスは、今日の社会課題の解決に資する内容であり、それを企画・開発し、運用を続けている皆さまの努力に深く敬意を表します。

これらのサービスが、明るいデジタル社会の基盤となることを期待しております。

総務副大臣・総務省参事官 挨拶

「総務大臣賞」は、日本国内で提供されている「優秀かつ社会的に有益なクラウドサービス」を表彰する ASPIC クラウドアワードにおいて、その年の最も優れたサービスに送られる、荣誉ある賞である。

ASPIC クラウドアワードは「社会業界特化系 ASP・SaaS 部門」や「AI 部門」「IoT 部門」など、全部で 10 部門によって構成。複数の有識者からなる ASPIC の審査委員会が、それぞれの部門ごと

に「グランプリ」をはじめとした各賞を決定する。

対して総務大臣賞は、まずはすべての部門に応募されたサービスのなかから、特に優れたものを審査委員会が選出。その後、総務省関係者も出席して行われる厳正な審査の結果、受賞対象が決定される。

2015 年に制定された総務大臣賞には、これまでもその年を代表する、いずれ劣らぬ優秀なサービスが選出され

ているが、今回は株式会社 RevComm の「音声解析 AI『MiiTel』」が見事その荣誉に輝いた。

またアワード当日は、総務大臣賞の発表に先だって総務副大臣・阿達雅志さまから、そして授賞式終了後のアフターパーティ会場にて総務省情報流通行政局参事官・山野哲也さまから、それぞれ参加者への祝意とクラウド業界のさらなる発展を祈念するスピーチをいただいた。

総務副大臣
阿達 雅志 様

プロフィール●あだち まさし
1959 年 9 月 27 日、京都市に生まれ、福井県、大阪府で育つ。京都洛星中学・高校、東京大学法学部卒業。住友商事株式会社入社。ニューヨーク大学ロースクール卒業。ニューヨーク州弁護士。2014 年 12 月、参議院議員に初当選（第 22 回通常選挙）。2022 年 7 月、参議院議員に当選（第 26 回通常選挙）し、当選 3 回。元内閣総理大臣補佐官（経済・外交担当）、参議院外交防衛委員長。2024 年 11 月より、総務副大臣（第 2 次石破内閣）。



受賞者各位の日ごろからの取り組みに敬意を表します

アワード各賞の受賞を
心よりお祝い申し上げます

皆さまこんにちは、総務副大臣の阿達雅志です。

今年で 18 回目を迎える、「ASPIC クラウドアワード 2024」が盛大に開催されることを心から喜びするとともに、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。

まず初めに、本日、各部門において受賞された皆さま方、さらにこのあと発表される「総務大臣賞」を受賞される方に対しまして、魅力的なサービスの開発提供など、日ごろの取り組みに敬意を表しますとともに、本日の受賞を心よりお祝い申し上げます。

総務大臣賞開始から 10 回目
デジタル化は大きく進展

さて本アワードにおける総務大臣賞の授与は、2015 年の第 1 回から数えて今回で 10 回目となりました。この間に、クラウドサービスのさらなる普及、近年の生成 AI の飛躍的進化を背景とする AI サービスの利用の拡大など、わが国のデジタル化は大きく進展しました。

その一方、例えば地方では人口減少や少子高齢化に伴う労働力不足への対応や、イノベーションによる社会経済活動への付加価値創出の必要性などの課題に直面しておりますが、さまざまな分野におけるデジタル化の進展・活

用は、こうした課題を解決するための鍵であり、新しい価値を生み出す源泉でもあります。

ここにお集まりの皆さまは
情報通信分野における先駆者

政府においても、石破総理の掲げる「地方創生 2.0」を実現していくために、「デジタル田園都市国家構想実現会議」を進展させ、「新しい地方経済・生活環境創生本部」を新たに創設しました。

AI、クラウドなどといったデジタル技術を最大限活用することは、地域の活性化や持続可能な経済社会を実現する上で必要となっておりま

そのためには、ここにお集まりの皆

さまのお力添えがぜひとも必要です。素晴らしいサービスを開発・提供されている皆さまに置かれましては、情報通信分野における先駆者として、引き続きご尽力を賜りますようお願いいたします。

また、現在ではクラウドを通じたサービス提供が一般的となっており、新たに生成 AI を活用したサービスなども広まりつつあります。

総務省では、「DX による持続可能な地域社会」の実現に向け、AI などのデジタル技術を活用した地域課題解決のための、自治体や民間の取り組みを支援し、地方創生の好事例創出や、その横展開などに取り組んでおります。

クラウド型ソリューションは、「好



事例の横展開」の観点からは、非常に相性が良いものだと考えています。こうした取り組みを通じて、民間の素晴らしいサービスが、地域でより一層活用されていくよう、後押ししてまいります。

最後になりますが、本アワードの主

催者であります ASPIC・河合会長をはじめ、関係の皆さまのこれまでのご尽力に敬意を表するとともに、今後の業界のさらなるご繁栄、そして本日お集まりいただいた皆さまの一層のご健勝、ご発展を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。



総務省 情報流通行政局 参事官 山野 哲也 様

プロフィール●やまの てつや
1998 年、郵政省（現・総務省）入省。これまで主に、電波の有効利用、電気通信事業、放送技術に関する政策のほか、最先端の情報通信技術の研究開発や標準化推進などを担当。総務省国際戦略局技術政策課企画官、研究推進室長、デジタル庁参事官などを経て、2023 年 7 月より総務省情報流通行政局参事官。

本アワードを他企業と「交わる場」として活用いただければ

どれも甲乙つけがたく 悩みに悩んで選考しました

18 回目となる ASPIC クラウドアワードが盛大に開催されたことを、心よりお喜び申し上げます。また、長期間にわたり準備や審査を行ってこられた河合会長や、阪田史郎・中村太一両審査委員長をはじめとした関係者の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

本アワードの特徴でもあります、利用者と提供者、双方の創意工夫から生まれた先進的なサービスを表彰することで、業界全体を盛り上げてきたものと認識しています。

総務大臣賞の検討に携わりましたが、どのサービスも甲乙つけがたく、

悩みに悩んで選考しました。他の受賞者の皆さま方も、ぜひ胸を張っていたきたいと思います。

クラウドサービスは今日日常生活や業務に欠かせない存在となり、その進化によって日本経済をさらに輝かせる可能性を秘めています。また、生成 AI との連携が進むなか、新たなサービスも生まれ続けています。

他方で、生成 AI のリスクや課題も指摘されています。AI ガバナンスも担当しているので一言触れますと、我が国は「広島 AI プロセス」など、国際的な議論を推進してきました。また、国内では、総務省は経済産業省と連携し、安全・安心で信頼できる AI の利用に向け「AI 事業者ガイドライン」

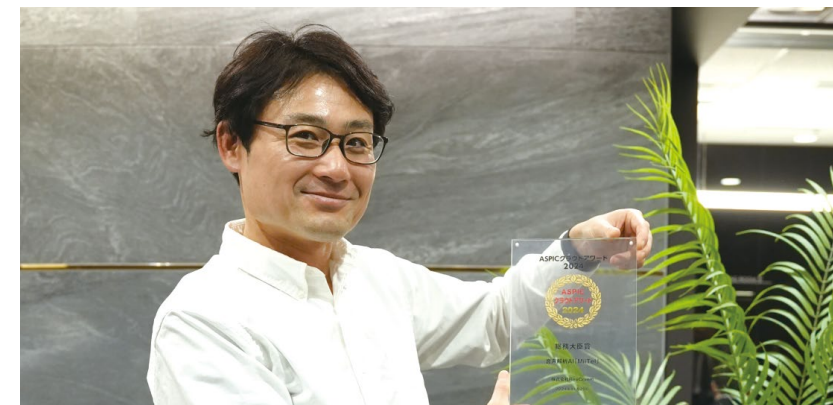
の整備などを行っています、これからも皆さまの取組に貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、総務大臣賞の RevComm さまをはじめ、受賞者の皆さま、本日は本当におめでとうござい

ます。今後も新技術を活用したサービス提供に期待するとともに、ぜひこの場を、新しいビジネス展開やコラボレーションなど、他の企業の方と「交わる場」として活用いただければと思います。総務省としても引き続き、様々な面で取組を支援してまいります。

総務大臣賞

株式会社 RevComm 「音声解析 AI『MiiTel』」



すべての会話をデータ化し 「会社の資産」として活用

「音声解析 AI『MiiTel』」は、会話内容を記録・解析し、音声データをさまざまな方法で活用できる革新的なサービスだ。対象となるのは、ビジネス上で生じるありとあらゆる会話によるコミュニケーションである。

音声データの文字起こしはもちろん、クオリティの高い議事録の作成、話し方や感情の分析などの機能を備えている MiiTel は、会話にかかわるすべての事象を可視化してアーカイブ。積み上げられたそれらの情報は、業務の効率化や社員のスキル向上などに活用できる「ビッグデータ」かつ「会社の資産」となる。

電話・リモート&リアル会議 あらゆるシーンをサポート

サービスは、主に次の 3 つのカテゴリに大別される。

まずは電話解析サービス「MiiTel Phone」。営業の電話を例にとると、対象の社員の通話時間が長いのか短いのか、社員とお客さまのどちらが話している時間が長いか、お客さまのトークに社員の発言がかぶっていないか、感情はどの様に動いているかなど、あらゆる面から会話の分析がなされる。それを通知表のような形式で可視化してくれるため、セールスの成果や顧客

海外進出も好調な 日本発の画期的サービス

株式会社 RevComm の設立は 2017 年。「ビジネスにおけるコミュニケーションを再発明し、人が人を想う社会を創る」という思いを込め、「Revolution」と「Communication」を組み合わせて社名とした。

また、すでに MiiTel に実装されている機能も含め、これまで計 6 件の特許を取得するなど、その高い技術力がサービスに生かされている。

2018 年のリリース以降、累計で 2500 企業・8 万人以上のユーザに利用されている MiiTel だが、近年は海外展開も活発で、米国では英語版を提供済み。2023 年にはインドネシアに現地子会社が設立された。

もともと、国ごとのタイムゾーンの違いや多言語対応を意識した開発がなされており、インドネシア語によるサービスのローカライズにも大きな苦労は生じなかったとのこと。

2024 年には、インドネシアの社会保険庁や労働省など政府機関に導入されるなど、現地での評価も非常に高い。

会話によるすべてのコミュニケーションに対応する MiiTel は、日本発の画期的な音声解析プラットフォームとしてビジネスを支え続ける。



社会業界特化系 ASP・SaaS 部門

「社会業界特化系 ASP・SaaS 部門」は、企業活動や社会活動を支える業種・業界及び社会横断的なサービスを対象としている。

受賞サービスが対象とする事業は、

医療、福祉、旅館・ホテル、不動産、建築、農業、自治体、学校、海運業など多岐にわたる。いずれも各業界に特化した特有の専門性や業務ノウハウを蓄積したきめ細かなサービスが多く、

DXの推進に貢献している。

今年の特徴としては、口コミ、動向予測等のデータ分析にAI（生成AI・機械学習）の活用が進んでおり、16%のサービスに導入されている。

総合グランプリ

株式会社カスタメディア「カスタメディア MASE」



汎用性とカスタマイズ性を両立するサービス

「カスタメディア MASE」は、「マッチングプラットフォーム」や「シェアリングエコノミー」でビジネスを行うwebサイトを、手軽に作成できるサービスである。ちなみに「MASE」とは、「Matching And Sharing Economy」の頭文字を取ったものだ。

ところでそれらのビジネスには、定番のタイプが存在する。サービスや知識などの需給をつなぐ「マッチング」（例・ココナラ）、ユーザ同士が商品を売買する「物販・フリマ」（例・メルカリ）、場所や機材のレンタルを行う「時間シェア」（例・Airbnb）、最後に「クラウドファンディング」の4つである。

そしてカスタメディア MASE では、その4タイプそれぞれの定番機能を組み合わせた「型」をあらかじめ設けている。

それに加えて、100種類以上用意された「ポイント機能」「Q & Aコミュニティ」「招待機能」などの多様なモジュールを組み合わせることで、

ユーザの利便性に柔軟に合わせたサイトを構築することが可能。

もちろん、それまでにない新機能の開発にもケース・バイ・ケースで対応する。

以上のように、汎用性とカスタマイズ性を両立させているのがカスタメディア MASE の大きな特徴だ。完全オーダーメイドのスクラッチ開発に比べ費用も安くすみ、スピーディーに事業を始められるところが評価され、現時点ですでに700以上のサービスへの導入実績を誇る。その豊富な実績から、顧客のサイト構築の前段階で、サービスのマネタイズ面に関する助言を行うケースもあるという。

スタートアップから大企業 地方自治体までをカバー

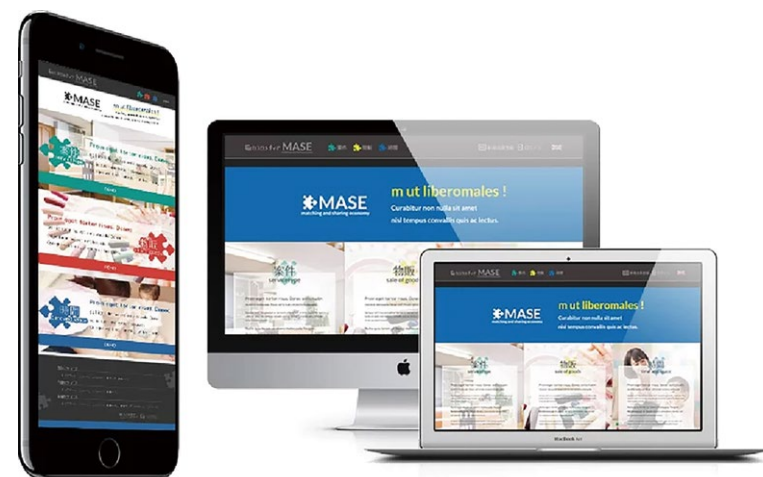
同サービスの当初の顧客は、新たに事業を立ち上げるスタートアップ企業が多かったとのこと。しかし昨今は、

JR 東日本やNTT ドコモといった大手企業が手掛ける新規事業や、神戸市などの地方自治体が新たに行う地方創生事業などからの引き合いも増えているそうだ。

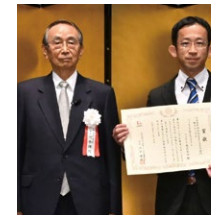
ところで現在の新規事業を取り巻く環境は、ビジネスを1000件立ち上げても3件しか残らない「千三つ」と呼ばれる多産多死の様相を呈している。

そんな、目まぐるしくものごとが変化する予測困難な「VUCA」時代において、「カスタメディア MASE」が目指すのは、「型」を活用した低コストかつ迅速なシステム構築により失敗リスクを抑え、ユーザが挑戦を繰り返せる風土を育むことだ。

マッチングプラットフォーム、シェアリングエコノミー市場の拡大を背景に、サービスの需要がますます高まるなか、カスタメディアはこれからもビジネスで社会全体への貢献を目指す。



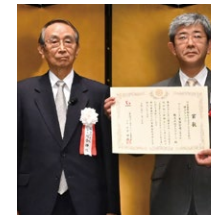
準グランプリ



フォルシア株式会社「フォルシア web コネクト」

主に旅行業界向けの、次世代型旅行商品販売プラットフォーム。料金・在庫がダイナミックに変動する「宿泊素材・交通素材・着地素材」を組み合わせ、動的な商品造成・販売をワンストップで実現する。

準グランプリ



株式会社アクアリーフ「フードバンク業務管理システム」

フードバンク業務特化型の業務管理システム。寄付品の入出庫、在庫管理、実績管理に加え、「寄付者→受益者」のトレーサビリティ実装で寄付企業への税制優遇を実現し、食品ロス削減などにも資する。

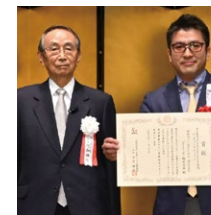
ベンチャーグランプリ



ブラウンリバー株式会社「INTEGNANCE VR」

現実世界の製造工場やプラントなどを仮想空間上に構築・共有することで、保全業務をDX・デジタル化するサービス。オンラインで簡単に現場が確認でき、現場業務の改革をサポートする。

ベンチャーグランプリ



ハロームービー株式会社「映画ガイド『HELLO! MOVIE』」

視聴覚障害者の劇場での映画鑑賞用の「スマホで聴く音声ガイド」「メガネで見る字幕ガイド」を提供するアプリ。キャッチコピーは「公開初日から、どの映画館の、どの席でもバリアフリー上映」。

受賞者一覧





審査委員会賞

株式会社ドコモ・インシュアランス
【IF-InsurTech® for MK】

GO 株式会社
【DRIVE CHART】

経営改革貢献賞

株式会社ブライセン
【クラウド型倉庫管理システム
COOOLa】

株式会社エイ・アイ・エス
【TRANS-Crew】

先進ビジネスモデル賞

ワイビービズインブルー株式会社
【GrantWill】

ヤマトシステム開発株式会社
【マルチバリューチャージサービス】

株式会社シナジープラス
【相続コンサルティング支援システム
SIPS】

DataBee 株式会社
【みらいえ 360】

株式会社ダイアログ
【W3 mimosa】

株式会社ブライセン
【B-Luck 循環式期限チェック】

社会貢献賞

milab 株式会社
【防災備蓄管理システム BxLink】

株式会社ユニタ
【ベジパレット】

GMO グローバルサイン・
ホールディングス株式会社
【GMO サイン電子公印】

株式会社 Fusic
【sigfy】

コードソリューション株式会社
【NF メンバーシップ】

株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
【みまもりがじゅ丸】

NEC ネクサソリューションズ株式会社
【2輪車安全教育支援サービス】

DX 貢献賞

株式会社ウェルネス
【Wellness Membership】

株式会社かんざし
【くちこみクラウド】

ヤマトシステム開発株式会社
【公金収納支援サービス】

ASPIC 会長賞

アイフォーコム・
スマートエコロジー株式会社
【作業者みまもりサービス】

株式会社プロ・フィールド
【Treasure Box】

株式会社ロイオズ
【ロイオズ】

株式会社アクシス
【電子薬歴 Medixs】

奨励賞

株式会社介護サブリ
【持ち物チェックアプリ】

エースチャイルド株式会社
【つながる連絡】

株式会社シータイム
【TRUCK QUEST】

基幹業務系 ASP・SaaS 部門

当部門は、企業等の「コア・バリューに直接関わる業務」を遂行するサービスを対象とする。

今年の傾向としては、これまで目立っていた会計関連のサービスが、電

子帳簿保存法やインボイスの施行に伴って下火になったことが挙げられる。しかし、人事・組織診断、教育、与信管理、EC、販売関連のサービスは堅調であった。

需要予測、与信、信用調査等の各種データに基づく分析・予測に、AI（生成 AI や機械学習）の活用が進んでおり、同部門の 22% のサービスに導入されている。

総合グランプリ

リスクモンスター株式会社「リスクモンスター与信管理クラウドサービス」



独自の格付けで示される 分かりやすい与信管理評価

リスクモンスター株式会社は、クラウド上で「与信管理」情報を提供する企業である。

ところで、調査会社が行う従来型の与信管理では、どうしても評点が中央値に偏りがちで、利用者側としては対象の倒産判断がつきにくかった。

そこで同社は、顧客にとってより分かりやすい与信管理情報を提供するため、企業を「A」から「F」までの 6 段階で評価する、シンプルな独自の格付けシステムを導入。「RM 格付」と呼ばれるこの序列は、リスクモンスターが保有する国内最大級のデータベースをもとにランク化したもので、情報は日々更新される。

顧客にとって気になるのは格付けの成績だ。評点の成績表は非公開だが、RM 格付の成績表は毎月公開されている。2024 年の実績としては、倒産した企業の 91% が「E」と「F」の格付けで占められていることから、その精度の高さがうかがえよう。

この RM 格付に加え、対象企業と「いくらまでの取引が妥当か」金額を教えてください「RM 与信限度額」が、会員が web ページからいつでも参照できる基幹サービスだ。

反社チェックなどの 多彩な機能を実装

より詳しい情報を得たければ、対象先の過去 2 年間の格付け変遷などが確認できる「e-与信ナビ」の出番だ。従来の与信調査が依頼から結果まで 1 カ月程度かかっていたのに比べ、このレポートは 1 件あたり 1,200 円で、ネットから即時取得可能だ。

そして「反社チェックヒートマップ」は、反社会的勢力とのつながりや法令違反を明示してくれる。

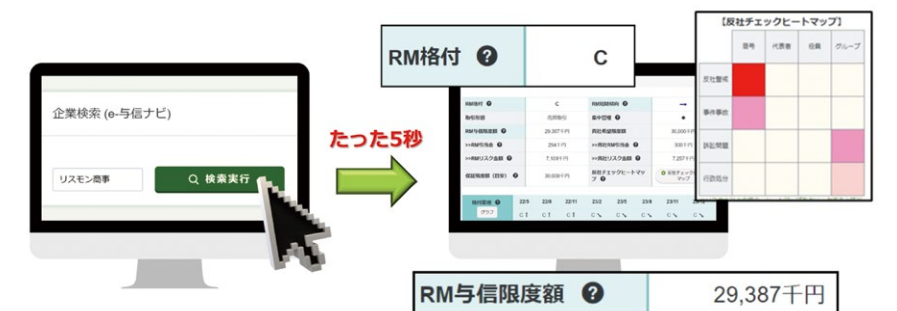
これは、対象企業、代表者、役員、関連会社などについての、反社情報、事件・事故、訴訟情報、行政処分が確認可能な、取引をするうえでのコンプ

ライアンスリスクを可視化してくれる機能。リスクモンスターが独自に収集した膨大な情報をもとにした反社チェックを、会員は 1 件あたり 1,000 円（e-与信ナビと同時に 500 円）で手軽に利用可能であり、リスク回避に大きく貢献してくれる。

使いやすく分かりやすい与信管理サービスを目指して起業されたリスクモンスターの創業は 2000 年。実は同社、2006 年の第 1 回 ASPIC クラウドアワード（当時は別名称）で委員会特別賞を受賞している。それから 18 年、さまざまな機能を追加した同サービスで再びアワードに参加し、見事、部門総合グランプリ獲得と相成った。

現在もリスクモンスターは利用者の DX 化促進のため、API サービスを提供することで、与信情報や反社・コンプライアンス情報をリアルタイムで顧客の社内システムに連携させるなど、さらなる価値の提供を目指している。

ワンクリックで与信チェック・与信限度額を算出！



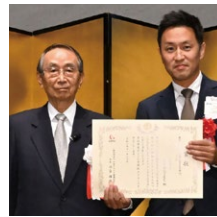
さらに、反社チェックも可能！



準グランプリ

株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン [CIERTO PIM]

商品に関わる情報を一元管理するサービス。EC・カタログなど販促媒体の制作環境を改善し、コスト削減、スピーディーな配信による売上拡大、マルチチャネル配信によるブランディングを実現する。



準グランプリ

株式会社 TKC 「インボイス・マネジャー」

請求書の発行・受領・保存を効率化するサービス。デジタルインボイスの日本標準仕様 (JP PINT) に対応済みで、ペポルインボイスの送受信が可能。請求書業務のデジタル化と生産性向上を実現する。

受賞者一覧



先進ビジネスモデル賞

PRONI 株式会社
[PRONI アイミツ]

株式会社 GRCS
[Supplier Risk MT]

株式会社 TalentX
[MyRefer]

サービス連携賞

株式会社 ROBOT PAYMENT
[請求管理ロボ]

株式会社システムインテグレータ
[OBPM Neo]

ツバイン株式会社
[RobotERP ツバイン]

環境貢献賞

日本テレネット株式会社
[DATATRUNK]

社会貢献賞

learningBOX 株式会社
[learningBOX]

LRM 株式会社
[セキュリオ]

株式会社 JSecurity
[MudFix]

KIS Security 株式会社
[KIS MailMon]

株式会社インプレス
[iCAS (アイキャス)]

株式会社 CSS-consulting
[HybRid 特レボ
定期報告届出支援機能]

DX 貢献賞

株式会社 TalentX
[MyTalent]

八千代エンジニアリング株式会社
[MENTENA]

審査委員会賞

株式会社プライセン
[B-Luck 需要予測型自動発注]

経営改革貢献賞

KYC コンサルティング株式会社
[RiskAnalyze]

プライマル株式会社
[BizForecast]

株式会社プロレド・パートナーズ
[Pro-Sign]

株式会社インソース
[Leaf Lightning]

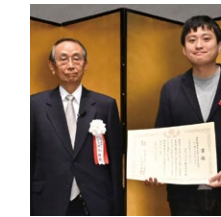
先進技術賞

株式会社インフォディオ
[DenHo]

ベンチャーグランプリ

fivot 株式会社 Fivot [Flex Capital]

スタートアップのためのデットファイナンスサービス。API 連携と AI、機械学習を用いた与信モデルにより、審査期間は最長 2 週間。無担保・無保証で、最大 3 億円の融資を提供可能。



ベンチャーグランプリ

ガレージバンク株式会社 [cashari / カシャリ]

モノ資産を管理・活用するためのアプリ。簡単な操作で、デジタルガジェットやブランド品など所有アイテムの資産価値を短時間で確認可能な上、必要に応じていつでも資金化することができる。

受賞者一覧



ASPIC 会長賞

ウェルネット株式会社
[ekaiin.com]

株式会社 PeopleX
[PeopleWork]

NE 株式会社
[ネクストエンジン]

株式会社ファブリカコミュニケーションズ
[アクションリンク]

株式会社ユニリタ
[まるっと帳票クラウドサービス]

ヤマトシステム開発株式会社
[証明書類 Web 取得サービス]

株式会社トラスクエタ
[TRUSQUETTA]

株式会社オブティム
[OPTIM 電子帳簿保存]

NTT コミュニケーションズ株式会社
[オンラインワークスペース
[NeWork]]

奨励賞

株式会社 TRUSTDOCK
[eKYC 本人確認 TRUSTDOCK]

株式会社ユニリタ
[Growwwing (グローウィング)]

株式会社 Fusic
[360 (さんろくまる)]

株式会社 visumo
[visumo]

株式会社 ROBOT PAYMENT
[サブスクペイ Professional]

株式会社 CSS-consulting
[HybRid 年次有給休暇付与管理機能]

アルブ株式会社
[Scalebase]

株式会社ミツモア
[プロワン]

キャディ株式会社
[CADDi Drawer]

東芝デジタルソリューションズ株式会社
[知財管理サービス iPeakMS]

株式会社インプレス
[iFUSION]

株式会社ユニエム
[CLOUD PASS]

日本ラッド株式会社
[集計名人アタボー 5®]

株式会社 GRCS
[Enterprise Risk MT]

支援業務系 ASP・SaaS 部門

当部門は、企業等の「コア・バリュー創出を円滑化するためのサービス」を対象とする。

今年の傾向としては、社内外におけるコミュニケーション、情報の共有、

社内情報の検索、SMS 送信、Web の脆弱性診断、情報共有などなど、各企業のメイン業務を支援するさまざまな優れたサービスが目立った。

他の部門の例に漏れず、当部門でも

情報検索、音声解析、マニュアルの作成などに AI の活用が進んでいる。AI は、同部門の 19% のサービスに導入されている。

総合グランプリ

エースチャイルド株式会社「つながる相談」



「SNS 相談」窓口専用の一元管理システム

「つながる相談」は、SNS 相談に特化した、相談窓口の管理システムだ。SNS 相談とは、主に LINE や Facebook などから、チャット方式で各種の相談をする方法。対面や電話での相談に比べて手軽なことから、さまざまなシーンでの導入が進んでいる。

サービスの主な顧客は NPO 法人・官公庁・自治体など、いじめや自殺防止、不登校などさまざまな社会問題に取り組む団体だ。現在 160 以上の組織に導入されており、PC 操作に不慣れでもスムーズに運用できる点などが評価され、SNS 相談の一元管理システムではトップシェアを誇っている。

サービスの開発時、スタッフは実際に相談に対応するカウンセラーに、徹底的なヒアリングを行ったという。企画設計段階から現場の意見をピックアップし、使用者にとって使いやすい管理画面や必要な機能に落とし込むことで、「SNS 相談専用」のサービスをゼロから作り上げたのだ。

現場の声に耳を傾け 使いやすい機能を多数搭載

そのような経緯で誕生した「つながる相談」には、現場の声を反映した機能が多数盛り込まれている。

例を挙げると、相談の詳細確認と情報の編集が一面で完結する「相談集中画面」モードや、過去の相談内容をスムーズに確認できる「相談履歴」や「メモ機能」などを搭載。

また、ひとりの相談者には必ずしもひとりのカウンセラーがマンツーマンで当たるわけではないため、業務の引き継ぎや相談への人員の割り当て機能なども充実している。

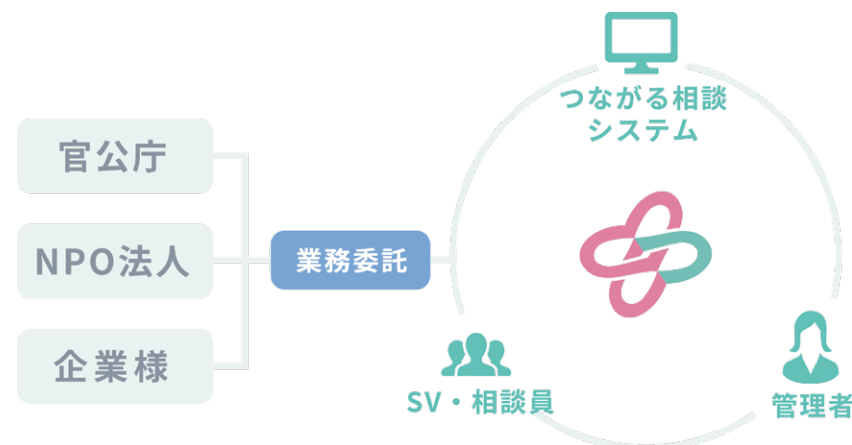
窓口には、緊急性の高い相談が寄せられることもある。そんな時に備えて、事前に危険度の高いワードを登録して「ハイライト表示」や「ダッシュボードでの上部表示」させる機能も存在。現場では、「警察に急行してもら

い、相談者の安全を確保する」といったケースもあるそうだが、最悪の事態を未然に防げるのも、作り込まれたシステムがあればこそなのだ。

研修・システム導入含め 3週間でサービス開始可能

実際のサービス開始前には、顧客に対して丁寧な研修が実施される。ここでは個別の相談への回答方法はもちろん、さまざまなデータの取得方法からオペレーターの追加の仕方まで、つながる相談のあらゆる操作を習得できる。なおシステムの導入も含めて、申し込みから 3 週間もあればサービスの提供開始が可能だという。

将来的には、AI を使った相談者への返答の草案作成機能などの追加も検討中とのこと。これからもエースチャイルドは、つながる相談とともに「悩んでいる人を、誰一人取りこぼさない社会」を目指す。



準グランプリ



サイオステクノロジー株式会社「Gluegent Flow」

クラウドを用いることで、申請フォームや承認経路を簡単・柔軟に設計可能なワークフローシステム。さらに、マスターデータや申請データとの連携により、業務プロセスの自動化や標準化にも貢献する。

ベンチャーグランプリ



エピソテック株式会社「動画・AR 手順書システム『Dive』」

現場作業系事業者向けの動画・AR 手順書システム。「現場スタッフの暗黙知」を容易に形式知化するための、手順分割に特化したシンプルな動画編集機能・ノーコード AR コンテンツ作成機能を提供。

受賞者一覧



DX 貢献賞

株式会社 GRCS
「CSIRT MT.mss」

株式会社ロフタル
「PigeonCloud」

NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社
「Karaden SMS API」

アララ株式会社
「アララ メッセージ」

働き方改革賞

VOICHAT 株式会社
「VOICHAT (ボイチャ)」

カコムス株式会社
「365 View」

株式会社エイジニング
「AtoZ portal」

ASPIC 会長賞

株式会社ジーシー
「FAnQcall (ファンキューコール)」

株式会社サイバーテック
「DocuPortal」

株式会社ユニリタ
「CommuRing (コミュリング)」

株式会社ワークストーリー
「WORKSTORY」

Supership 株式会社
「KDDI Message Cast」

奨励賞

SOTI Japan 株式会社
「SOTI ONE」

NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社
「モバイルウェブ」

Supership 株式会社
「S4Ads」

株式会社ロボラボ
「マッチングクラウド」

先進技術賞

Supership 株式会社
「Search Solution : S4」

先進ビジネスモデル賞

株式会社ジーシー
「RoboSell (ロボセル)」

サイエンスパーク株式会社
「CL-UMP」

noco 株式会社
「トースターチーム」

日本インフォメーション株式会社
「スマートセッション」

株式会社 NX ワンビシアークイブズ
「WAN - RECORD Plus」

サービス連携賞

株式会社 WOW WORLD
「WEBCAS」

株式会社スリーシェイク
「Reckoner」

社会貢献賞

東日印刷株式会社
「ネクスタ・メイシ メール配信機能」

株式会社スリーシェイク
「Securify (セキュリファイ)」

データ活用系 ASP・SaaS 部門

当部門は、オープンデータ・ビッグデータを活用することで、さまざまなバリューを提供するクラウドサービスを対象としている。

2018年の「第12回 ASPIC クラウド

アワード」にて誕生した、比較的新しい部門であり、初回の株式会社バスコから、今回受賞したファインディ株式会社まで、これまで4社がグランプリの栄誉に輝いた(2020年、2022年、

2023年は該当者なし)。

対象となるサービス領域は、電子行政、防災・防犯、健康・医療・介護・福祉、観光など、それ以外にも多岐にわたっている。

データ活用系 ASP・SaaS 部門・総合グランプリ

ファインディ株式会社「Findy Team+」



IT エンジニアの生産性向上を支援

「Findy Team+」は、IT エンジニアとそのチームの生産性向上を支援する SaaS ツールである。

実際のサービスは、ツールが一人ひとりのエンジニアの作業記録を収集して可視化し、顧客は Findy Team+ の力も借りつつ問題点を洗い出して、パフォーマンスを高めるための改善策を実行していく、といった流れで展開されていく。

Findy Team+ がデータを得るのは、エンジニアが使用する標準的プラットフォーム「GitHub」や「GitLab」、「Jira」などから。それらのツールと連携することで、エンジニアの行うコーディングなどの活動ログが、随時取得される。

収集されたデータは、グラフなどの形で可視化される。しかし顧客としては、それらのデータをただ見せられただけでは、「自分たちは何をすればいいのか」まではなかなか思い至らず、具体的な行動に移すのは困難である。そこで活躍するのが Findy Team+ の

「カスタマーサクセス」担当者だ。

カスタマーサクセスは、ツールによって得られたデータを、顧客とともに分析する役割を担う。例えばあるプロジェクトで、「チームのコミュニケーションがうまくいっていない」という問題点を読み取れた場合、カスタマーサクセスは顧客とともにデータを分析して「作業する上でのルールが非効率である」などの原因を読み解いていく。

さまざまなケースに知見を持ち合っ二人三脚で取り組み、顧客の「気付き」につなげることで、最終的には顧客自身が問題の発見から解決まで行える体制を構築するという。

特許取得の機能でチームの生産性を診断

分析の中核には「DORA メトリクス」と呼ばれる、プロジェクトを「速度」と「安定性」から評価する指標が据えられおり、ユーザはツールを使って、

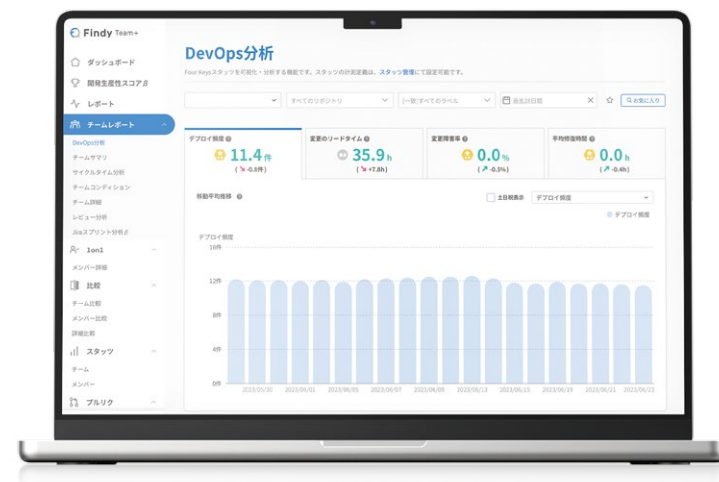
さまざまな切り口からその生産性を確認できる。

それに加え、同社が特許を取得した「エンジニア組織の開発生産性診断」機能を使えば、チームを具体的な点数で示すことも可能。この機能は、なかなか評価されにくいエンジニアの頑張りを分かりやすく経営陣に伝える「架け橋」になることも期待される。

また、Findy Team+ は DORA メトリクスに加え、「SPACE」というフレームワークに則った分析手法も導入済みだ。こちらは仕事が開発者にもたらす満足度や幸福度も加味して評価する枠組みであり、ツールから得られる評価に、さらなる重層性をもたしている。

直近では、エンジニアのデータを生成 AI が分析し、対策をサジェストしてくれる機能も追加された。

これからも同社は Findy Team+ をはじめとするサービスで、挑戦するエンジニアを応援し続ける。



運用部門

当部門は、ASP・SaaS に関わるデータセンターの運用保守を実施しているサービスと、クラウドサービスの運用保守を実施しているサービスを対象とする。

2015年の「第9回 ASPIC クラウドアワード」にて、5つ目の部門として新設されており、初回のグランプリの栄誉は株式会社日立システムズの手に輝いている。

残念ながら今回は、グランプリに該当するサービスは選出されなかったが、ASP・SaaS の基幹をなす部門のひとつでもあり、今後とも参加される企業の健闘に期待したい。

受賞者一覧



データ活用系 ASP・SaaS 部門

経営改革貢献賞

株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
「健康経営支援サービス」

DX 貢献賞

株式会社 Srush
「データ統一クラウド Srush」

働き方改革賞

セブンセンスマーケティング株式会社
「みえるクラウド ログ」

運用部門

経営改革貢献賞

ヤマトシステム開発株式会社
「システム運用監視サービス」

運用部門・社会貢献賞

株式会社エムアンドエイチリライアンス
「RCOE」

IoT 部門

当部門は、センサー機器やアクチュエーター（駆動装置）を含む「IoT クラウドサービス」を取り扱う ASP・SaaS、および IaaS・PaaS を対象としている。

今年の傾向としては、センサーやカメラなどから収集されたデータをもとに、「建築現場の安全管理」「労働環境の健康と安全」「電子錠デバイスの開錠管理」などを実現するサービスが寄

せられており、さらに社会に溶け込んだ IoT 技術が目立った。

また、AI 技術の活用により、IoT データをより高度に駆使するサービスへの進化も顕著であった。

IoT 部門・総合グランプリ

ヤマトシステム開発株式会社「セキュリティ module サービス」



クラウド技術で 安全な輸送を実現

2021 年にリリースされた「セキュリティ module サービス」は、クラウドに対応したデバイスを活用して、輸送品の施錠・開錠状態をモニタリングできる画期的なセキュリティシステムである。簡単に安全面の強化ができる点が評価され生損保業界をはじめ、現在 260 社ほどから利用されている。

サービスの核となるのは、大人の手のひらほどの大きさの丈夫な南京錠型デバイス「セキュリティ module」。専用 IC カード、または web の管理画面でのみ開錠が可能な電子錠で、GPS 機能も付属し、内蔵されたバッテリーにより 1 週間程度は駆動できる。

実際の利用時、ユーザは機密書類等を入れた任意のケースをセキュリティ module でロックして出荷することで、「開閉履歴ログ」や「現在地情報」を確認可能。「いつ・どこで・誰が」開けたか把握できるため、輸送品のセキュリティは強力に担保される。

また社内便や社員によるハンドキャ

リーなど任意の方法で輸送できるため、ユーザ主体の柔軟な運用が行える。

お客さまの要望に応えた 小型の南京錠型端末

当サービスを開発した「ヤマトシステム開発株式会社」は、1973 年にヤマト運輸の電算室から分社・設立。年間約 23 億個の荷物（2023 年度実績）を取り扱うヤマトグループのシステム面を担うのはもちろん、一般の顧客にも多くのサービスを提供している。

「セキュリティ module」の源流は個人情報保護法施行の影響で開発され、2005 年に提供が開始された「e-ネコセキュリティ BOX」だ。開閉ログや GPS 情報などサービスの基本は同じだが、前者との違いは e-ネコセキュリティ BOX が荷物を入れる 100 サイズ（縦横奥の合計が 100cm）の「箱そのもの」である点。箱だけで約 6 kg の重量があり、たとえ荷物が小さな書類

だけでも、箱の大きさに合わせた輸送料金もかかってしまっていた。

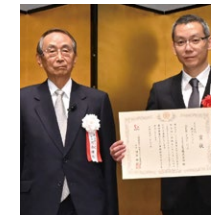
そんななか、お客さまから寄せられた「小型荷物も手軽に輸送したい」という要望が、南京錠型の当製品の開発につながる。そのような経緯から、名前に含まれる「module」には、「お客さまの業務を邪魔することなく、ひとつのパーツのように使ってほしい」という思いが込められているという。

現在、水道局の要望に向け、一つひとつ人の手で集めている水道メーターの情報を、走行中の車両に搭載したセキュリティ module で収集可能なモデルも検討中だ。この「走る車両で各種データを取得する」機能は、他の業種での活用も考えられるとのこと。

全国に車両を走らせているグループの強みが発揮できる当機能が加わることで、セキュリティ module のさらなる進化が期待される。



IoT 部門・準グランプリ



IoT-EX 株式会社「DER POC パック」

太陽光パネルや電気自動車など、家庭や企業が設置した「DER（分散エネルギー資源）」を統合制御するシステム。柔軟性と低コストを兼ね備えており、効率的なエネルギー管理を実現している。

IaaS・PaaS 部門

当部門は、「IaaS」並びに「PaaS」の分野に該当するサービスを対象とする。

ここで定義される IaaS とは、ASP・SaaS の提供に必要なハードウェア資

源をネットワーク経由で提供するサービス。PaaS とは、アプリケーションやシステム等の開発・実行環境を提供する「システム基盤サービス」、ネットワークの状態を監視・最適化して安

全な利用を実現する「ネットワーク基盤サービス」、アプリケーションの ASP・SaaS 化に必要な課金・認証等の付加機能を提供する「開発・実行基盤サービス」を指す。

受賞者一覧



IoT 部門

社会貢献賞

NSW 株式会社
「Around Now!」

センスウェイ株式会社
「みまもり Watch」

ASPIC 会長賞

IoT-EX 株式会社
「LPWA POC パック」

IaaS・PaaS 部門

経営改革貢献賞

エックスサーバー株式会社
「エックスサーバー」

DX 貢献賞

テクノブレイブ株式会社
「おさくら」

AI 部門

当部門は、AI（ビッグデータ含む）クラウドサービスを取り扱う ASP・SaaS、および IaaS・PaaS を対象としている。

今年の傾向として挙げられるのは、

マーケティング、人事評価、コールセンター、議事録自動作成、Web 接客など、さまざまな分野で OpenAI 社の「ChatGPT」をはじめとした生成 AI を利用したサービスが目立っていること

である。

同部門を取り巻く状況としては、他部門のサービスでも AI の導入が加速しているため、部門間の境界が薄れていることも指摘される。

総合グランプリ

感性 AI 株式会社「感性 AI アナリティクス」



「人間の感性」をベースに 商品进行评估してくれる AI

「感性 AI アナリティクス」は、見る・聞く・触るなどで生じる「人間の感性」を基盤とした AI により、さまざまな商品を分析するサービスだ。商品の「名前」や販促時に付けられる「キャッチコピー」、「パッケージデザイン」などのブランディングに関わる要素を「人の感性がどう捉えるか」をベースに定量化して、顧客のマーケティングに役立ててもらうことを目的としている。

具体的には、まず使用者は商品名やキャッチコピーを入力。すると、消費者の感性データを学習した AI がその印象を分析し、「現代風」「個性的」「強い」などのさまざまな評価項目にわたってスコアを付けてくれる。

さらに商品パッケージデザインを読み込ませれば、「明るい」や「温かい」、「みずみずしい」などで商品の外観も採点可能。加えて、パッケージをマトリックス区分で表示し、実際に「どの部分」がどんな印象を与えるかを、ヒートマップ形式で教えてくれるのだ。

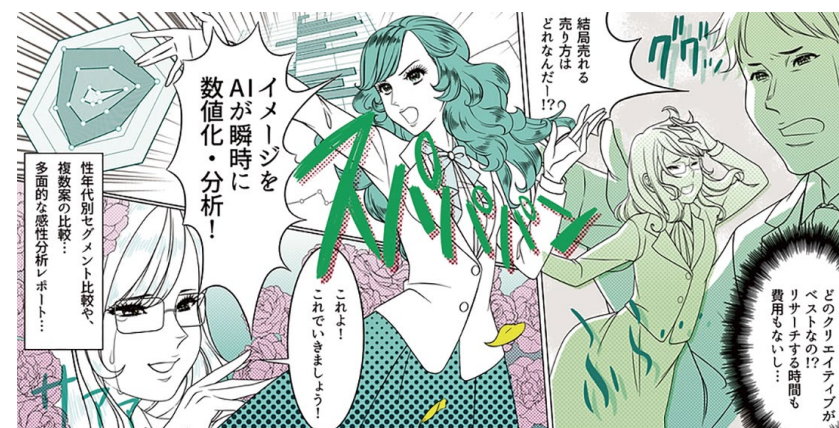
それらの機能により従来曖昧になりがちだった、クリエイト担当者への修正指示が具体的にやりやすくなる点も評価されるポイントだ。

市場調査にかかる 膨大なコストを低減

消費者のニーズに合わせるため、商品開発において複数回の市場調査は必要不可欠だが、アンケートなどの各種リサーチが必要な、どうしてもコストがかかるプロセスである。

その点、当サービスは商品名やパッケージをブラッシュアップする段階で何度も手軽に感性評価を行えるため、時間と手間を省いた効率的なクリエイティブ案の改善が実現できる。

なお現状、同サービスの顧客には食品や飲料などを扱う大企業が多いが、月額 6 万円から導入が可能で単月契約も可能であるため、中小企業の試用的な導入も大歓迎とのことだ。



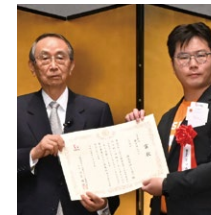
「感性」を押し出した ツールとして今後も進化

開発元の「感性 AI 株式会社」は、電気通信大学の「音韻分析」の技術を活用して、2018 年にスピナウトしたベンチャー企業。2021 年にサービスを開始した「感性 AI アナリティクス」は、第 15 回 ASPIC クラウドアワードの AI 部門でもニュービジネスモデル賞を受けている。

そして今回、さらに独自の AI モデルを強化し、アンケート分析など商品企画を支援する新機能もプラスするなどした結果、総合グランプリ受賞に結びついた。直近の開発では、ユーザーインターフェースの改良で顧客の利便性を向上させることを予定している。

感性 AI アナリティクスは、今後も他に類のない「感性」を前面に押し出したマーケティング用ツールとして、顧客のために進化を続ける見込みだ。

準グランプリ



株式会社ミツカリ「ミツカリ」

ミツカリ独自の「適性検査」と「エンゲージメントサーベイ」を用い、社員一人ひとりの性格や相性を理解・分析し、個と組織の力を最大化する HRTech（ヒューマン・リソース・テクノロジー）サービス。

受賞者一覧



審査委員会賞

株式会社ソフトフロントホールディングス
「AI ボイスボット commubo」

先進技術賞

株式会社喋ラボ
「いきなり議事録」

先進ビジネスモデル賞

株式会社サイバーセキュリティクラウド
「CloudFastener」

株式会社ディーエスブランド
「おりこう AI コンシェルジュ」

サービス連携賞

株式会社ジャンプスタートパートナーズ
「パルスアイプラス」

社会貢献賞

IoT-EX 株式会社
「AI POC バック」

DX 貢献賞

株式会社オプティム
「OPTiM Contract」

働き方改革賞

センスウェイ株式会社
「ワーカーコネクト」

ASPIC 会長賞

株式会社サイバーセキュリティクラウド
「WafCharm」

株式会社 THA
「AI 社長」

受賞記念パーティ

表彰式後に行われた「受賞記念パーティ」では、総務省・山野参事官のご祝辞をいただくとともに、グランプリ受賞者、ASPIC 関係者たちによるスピーチが行われた。

続く歓談の時間には、和気あいあいと談笑する参加者たちの姿が会場各所で見られた。この場から多くのビジネスチャンスが生まれたのではないだろうか。



「夢」のあるサービスで日本の IT を発展させてください



ASPIC クラウドアワード副審査委員長
(AI/IoT/laaS・PaaS/運用部門)
早稲田大学教授、元総務省大臣官房審議官
稲田 修一様

本日、総務大臣賞・各部門グランプリをはじめとする各賞を取られた皆さま、本当におめでとうございます。

クラウドサービスは、いままさに成長期です。それが参加されている皆さまのアイデアと努力のたまものであることを、審査を通じて確信することができました。

皆さまにはこれからもサービスを進化させていただきたいのですが、少しだけ注文がございます。1つ目は、最近「課題」から出発するサービスが多いのですが、「夢」も大事にしてほしいということです。「夢がある解決」は人々をワクワクさせます。お客さまが集まりやすくなります。そうするとデータも集まり、サービス進化のスピードアップにつながります。そういった観点から「夢」についても考えていただきたいのです。

もう1つは、アワードで賞を取ったことを終着点にせず、ASPIC でぜひ「仲間を見つけて」いただきたいということです。「検索サイト『アスピック』」にあるサービスが一丸となれば、日本は IT 大国になっている」といつも思うのですが、そうならないのは一つひとつが独立したバラバラのサービスからです。ASPIC に集まったサービスが大きな塊になると、さらに強くなります。他のサービスとの相乗効果で自らを強くする場として、ぜひ ASPIC を活用してください。

「夢」を持ち、自分のサービスを強くする方法を考えることで、皆さまにはますます日本の IT サービスを発展させていきたいのです。

間を見つけて」いただきたいということです。「検索サイト『アスピック』」にあるサービスが一丸となれば、日本は IT 大国になっている」といつも思うのですが、そうならないのは一つひとつが独立したバラバラのサービスからです。ASPIC に集まったサービスが大きな塊になると、さらに強くなります。他のサービスとの相乗効果で自らを強くする場として、ぜひ ASPIC を活用してください。

「夢」を持ち、自分のサービスを強くする方法を考えることで、皆さまにはますます日本の IT サービスを発展させていきたいのです。

ユーザを獲得するなら ASPIC 公式 SaaS 比較・活用サイト「アスピック」

検討意欲のある
リードがなかなか
増えない……



お客さまの検討
対象から漏れて
しまっている……



手一杯でマーケ
ティング施策を
増やせない……



その課題、

ASPIC 公式サービス
アスピック

で **解決** しよう！

アスピック カテゴリから探す 無料レポート 特集記事 口コミを書く 会員登録(無料) ログイン

ITサービスと 新たな一歩を。

日本を代表する
SaaS 団体 ASPIC が運営
ITサービスの比較・紹介サイト
「アスピック」
会員数 **1,100** 社
一般社団法人
日本クラウド産業協会

サービス名やカテゴリ名で検索



アスピックとは？

「アスピック」は一般社団法人日本クラウド産業協会（ASPIC）が運営する法人向けクラウドサービス紹介・資料請求型の比較サイトです。徹底したサービス理解のもとに様々なコンテンツを配信し、認知拡大・リード獲得のお悩みを解決します。

システム #経費精算システム #Web請求書システム #帳票発行サービス #請求書受領サービス #電子帳簿保存サービス #予算管理システム #会計ソフト #連結会計



見込み顧客

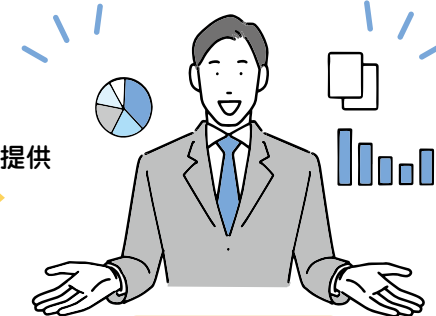
流入（自然検索）

資料ダウンロード

ASPIC 公式サービス
アスピック

- ▶ 特集記事
- ▶ サービス紹介記事
- ▶ 無料レポート
- ▶ 選び方ガイド

リード情報の提供



サービス事業者

アスピックが選ばれるワケ



検索エンジンからの自然流入に強い！

「〇〇システム」「〇〇システム比較」などで検索した際の上位表示率は業界トップレベル。具体的な解決策を求めて検索しているユーザに訴求します。



独自の比較記事、サービス紹介記事が魅力！

サービス選定に役立つ内容と信頼性のあるコンテンツを豊富に用意。「アスピック」の特集記事は、観光庁の「宿泊経営ガイドライン」（2023.1.20）でも取り上げられています。



リード獲得や認知拡大への評価による高い継続率

1100 社以上が加盟する SaaS 団体・ASPIC が運営。成果と納得感のあるサービスを提供することによって、9 割の掲載企業に 1 年以上継続的にご利用いただいております。



300 カテゴリー **1115** サービス **以上掲載**



お問い合わせ先
一般社団法人 日本クラウド産業協会（ASPIC）
業務委託先 株式会社ブルートーン
e-mail: info@bluetone.co.jp
担当：菊地、佐藤

ASPIC 法人会員新規入会企業一覧

▶2024年1月～2025年1月にASPIC法人会員へ新規入会された企業の皆さまをご紹介します。
1999年に創立したASPICの会員は2025年1月現在、法人会員、パートナー会員、アワード会員、公共会員、賛助会員、個人会員を合わせて1,245を超えております。これからますます会員同士の交流を深め、新たなビジネスチャンスが創出されることを願っています。（アルファベット・50音順）

AXLBIT 株式会社

108-0072
東京都港区白金 1-27-6
白金高輪ステーションビル
☎03-4590-9974
🌐<https://axlbit.com/>

株式会社 X-Regulation

105-0001
東京都港区虎ノ門 1-3-1
東京虎ノ門グローバルスクエア 5階
☎03-3528-8809
🌐<https://www.x-regulation.com/>

株式会社 NEUGATE（ノイゲート）

107-0052
東京都港区赤坂 6-3-12
リバービル 2階
☎03-5545-5242
🌐<https://neugate.co.jp/>

株式会社アイディーエス

135-0016
東京都江東区東陽 3-23-22
東陽町プラザビル 6F
☎03-5653-9550
🌐<https://www.ids-soft.co.jp/>

NewIT 株式会社

102-0073
東京都千代田区九段北 1-4-7
喜助九段北ビル 7階
☎03-6868-5721
🌐<https://newit.co.jp>

株式会社アクアリーフ

254-0034
神奈川県平塚市宝町 3 番 1 号
平塚 MN ビル 11 階
☎0463-63-1400
🌐<https://www.aqualeaf.co.jp/>

株式会社 Oriental Kingdom Group

141-0022
東京都品川区東五反田 1-10-8
五反田 S&L ビル
☎080-5353-0158
🌐<https://okgroup.co.jp/>

エスエスシー株式会社

511-0911
三重県桑名市額田 293
☎0594-33-3080
🌐<https://www.ssc-inc.jp/>

株式会社 Srush

103-0027
東京都中央区日本橋一丁目 4 番 1 号
日本橋一丁目三井ビルディング 5 階
☎03-6387-3411
🌐<https://www.srush.co.jp/>

株式会社エムアンドエイチリliance

556-0017
大阪府大阪市浪速区湊町 1-2-3
マルイト難波ビル 14F
☎06-6631-8811
🌐<https://m-hreliance.com/company/>

カサナレ株式会社

150-0043
東京都渋谷区道玄坂 1 丁目 12-1
渋谷マークシティ WEST 棟 22F
☎03-4360-5765
🌐<https://kasanare.co.jp/>

株式会社はてな

107-0062
東京都港区南青山 6-5-55
青山サンライトビル 3F
☎03-6434-1286
🌐<https://hatena.co.jp/>

株式会社カスタメディア

651-0086
兵庫県神戸市中央区磯上通 6-1-17
Wembley BLDG 4 階
☎078-855-3270
🌐<https://service.customedia.co.jp/>

ファインディ株式会社

141-0001
東京都品川区北品川 6-7-29
ガーデンシティ品川御殿山5階
☎03-6845-0146
🌐<https://findy.co.jp/>

嘉創株式会社

103-0014
東京都中央区日本橋蛸殻町 1-12-7
WACROSS NINGYOCHO5 階
☎03-6264-8325
🌐<https://ka-so.jp/>

リーテックス株式会社

160-0005
東京都新宿区愛住町 22
第3山田ビル 8 階
☎03-6273-2207
🌐<https://le-techs.com/>

株式会社サウスエージェンシー

150-0022
東京都渋谷区恵比寿南 3-2-13
リードシー恵比寿ビル 4F
☎080-8380-9366
🌐<https://www.southagency.co.jp/>

株式会社レイ・イージス・ジャパン

160-0023
東京都新宿区西新宿 7-22-33
Polar 西新宿 4F
☎03-6703-6619
🌐<https://www.rayaegis.co.jp/>

株式会社システムディ

604-8172
京都府京都市中京区烏丸通り三条上る場之町
603 番地
☎075-256-7777
🌐<https://www.systemd.co.jp/>

日本インフォメーション株式会社

464-0850
愛知県名古屋市中種区今池 1 丁目 8 番 8 号
今池ガスビル 6F
☎052-741-7566
🌐<https://www.nicnet.co.jp/index.html>



創刊に寄せて

この度、一般社団法人日本クラウド産業協会は、定期刊行誌『ASPICクラウドマガジン』を創刊する運びとなりました。

本誌創刊の目的は、会員の方々はもちろん、クラウド業界や世間一般、そして官公庁の皆さま方に、ASPICの活動への理解をより深めていただくことにあります。

また、あえて本誌を「紙媒体」で出版した理由は、読者である事業者の方々にとりまして「営業ツール」として使いやすい形態を模索した結果でございます。どうぞ本誌を活用し、より一層の自社サービス周知につなげてください。

思えば、ASPICが書籍で情報を発信するのは、2015年の『ASPIC15年史』以来、久しぶりのこととなります。今後は、年2回程度出版予定の『ASPICクラウドマガジン』とともに、『ASPIC25年史』の出版も控えておりますので、それらを通じて、よりASPIC活動を知っていただくとともに、少しでもクラウド業界全体の発展に寄与できれば幸いです。

最後になりますが、「ASPICクラウドアワード」を特集した記念すべき『ASPICクラウドマガジン』創刊号では、多くの受賞企業の皆さま、総務省をはじめとする関係各位に紙面にご登場願いました。この場をお借りしまして、ご協力いただいた皆さま方に改めて厚く御礼を申し上げます。

一般社団法人 日本クラウド産業協会（ASPIC） 会長
河合 輝欣

CONTENTS

- 01 インタビュー
ASPIC会長 河合 輝欣
- 05 特集
ASPICクラウドアワード2024
- 06 審査委員長総評
- 07 総務大臣賞
- 10 社会業界特化系ASP・SaaS部門
- 13 基幹業務系ASP・SaaS部門
- 16 支援業務系ASP・SaaS部門
- 18 データ活用系ASP・SaaS部門
- 19 運用部門
- 20 IoT部門
- 21 IaaS・PaaS部門
- 22 AI部門
- 24 受賞記念パーティ
- 26 ASPIC法人会員新規入会企業一覧
- 28 創刊に寄せて
奥付

『ASPICクラウドマガジン』創刊号 2025年2月12日発行

発行
一般社団法人日本クラウド産業協会（ASPIC）
〒141-0031
東京都品川区西五反田7-17-7 五反田第1noteビル5階
(2025年4月より)

<https://www.aspicjapan.org/>

発行人
河合 輝欣

編集
「ASPICクラウドマガジン」編集部
(花岡 孝義、高橋 慎治、門井 武司)
「ASPICクラウドアワード」事務局
(高橋 伸之、春日 俊一、岩田 恵一、関 繁)

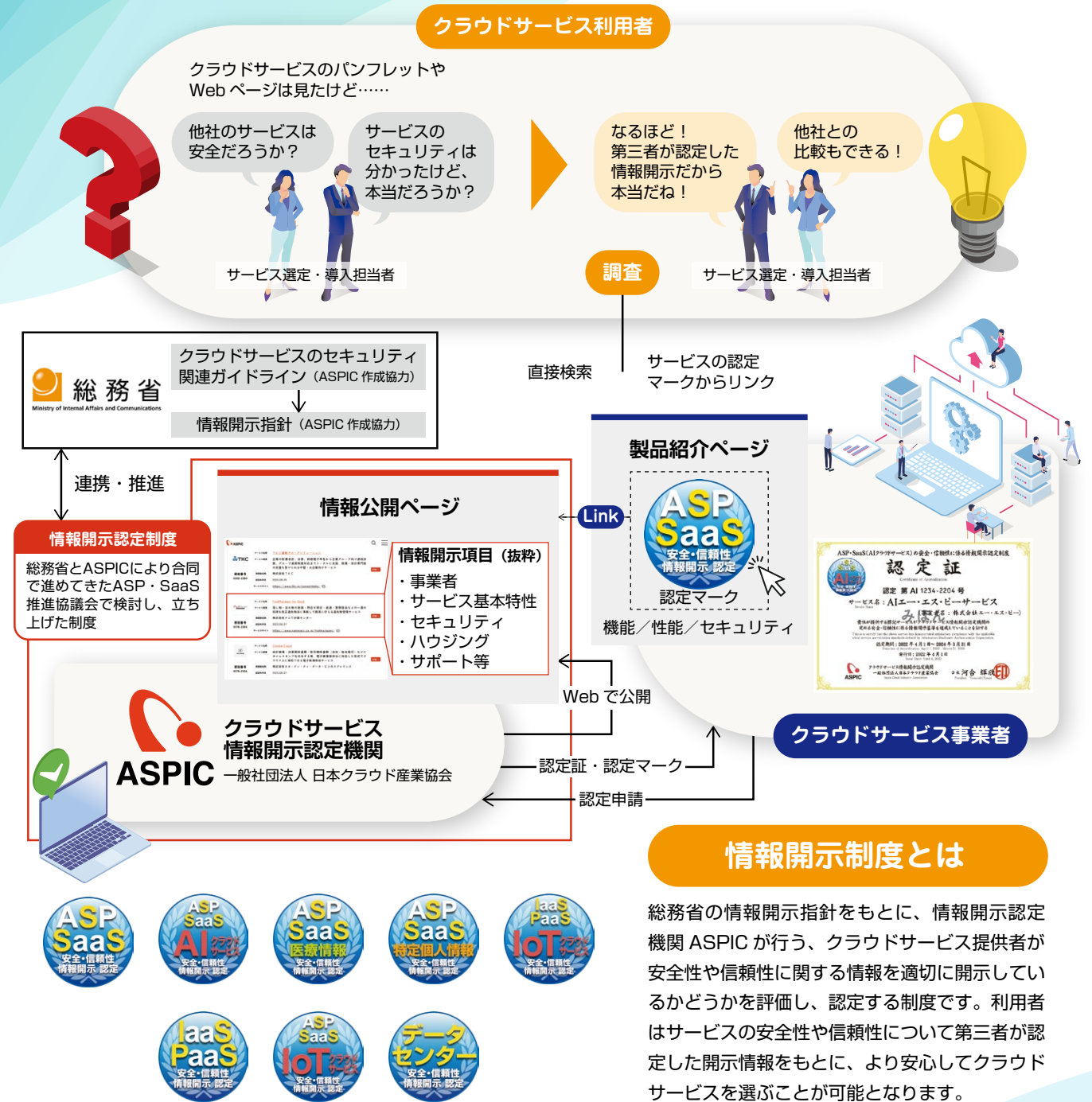
株式会社アシヅカ

印刷・製本
株式会社グラフィック

本誌掲載の記事・写真・イラストなどを無断で複写、複製、転載することは著作権法上での例外を除き、禁じられています。

『情報開示認定』で自社サービスの安全安心をアピール

クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示認定制度



SaaS 利用者の 44%は情報開示認定を選定条件、もしくは選定時の参考としています。

セキュリティセンターの利用企業・組織を対象とした SaaS のセキュリティに関する情報開示、情報利用の実態調査、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）2023 年 7 月 24 日より。

認定取得企業の声

- ▶ 第三者機関の認定マークがあることでサービスの信用が高まり、大手企業からの引き合いが増加しました。
- ▶ 会社の ISMS の規定で、新規サービスは「情報開示認定を受けること」という規則を定めており、自社の稼働を大幅に削減できています。
- ▶ 認定取得に向けた説明資料の収集をすることで、情報セキュリティだけでなく、会社全体の仕組みを知ることで、社員教育にも役立っています。

情報開示認定申請サービス募集中 詳しくは

03-6662-6854

aspic@cloud-nintei.org

お電話・メールの営業時間
9:30～17:00（土・日・祝日を除く）

ASPIC 認定



貴社の成長を後押しする

ASPIC 入会のご案内

<https://aspicjapan.org/join/>



初年度会費割引
キャンペーン中！

- ・35万円→18万円
- ・18万円→9万円
- ・12万円→6万円

ASPICとは

一般社団法人日本クラウド産業協会 (ASPIC) とは、クラウド企業（パートナー会員を含む）1,245社以上が加盟する団体です。

1999年の設立以来、総務省と連携して各種ガイドライン・指針の作成や情報開示認定制度の策定など、日本におけるクラウドサービスの普及・促進に取り組んできました。

法人会員年会費

- ・35万円
- ・18万円
- ・12万円

(社員50人以下、資本金1億円以下、売上高10億円以下、うち2項目満たす場合)

(上記条件のうち、すべての項目を満たす場合)

法人会員の他、パートナー会員、アワード会員、公共会員、賛助会員、個人会員などの会員種別がございます。詳細はサイトをご覧ください。

ビジネスを強力に推進するASPIC入会特典

1

会員情報交換会で、他社との
ビジネス連携を推進！

2

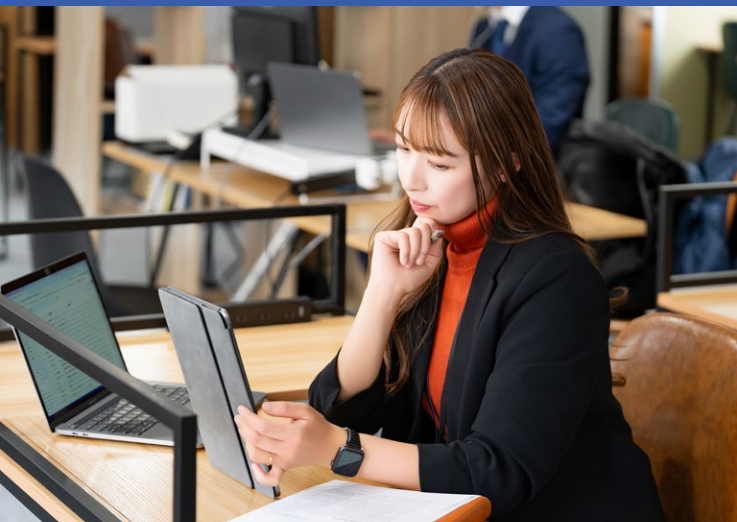
会員紹介・仲介で、自社の
サービスを周知！

3

クラウド研究会で、業界の動
向（クラウド技術、政策動向
など）を提供！

4

クラウドの最新情報（AI技
術、セキュリティ、官公庁情
報含む）を随時発信！



お問い合わせ先

一般社団法人 日本クラウド産業協会 (ASPIC)
東京都品川区西五反田7-17-7 五反田第1noteビル5階 (2025年4月より)
e-mail : office@aspicjapan.org TEL : 03-6662-6591
担当 : 花岡

